

## 要望書（回答）

1. 米軍戦闘機の 9 回目となる苫小牧上空を通過しての訓練は受け入れられないこと。特に、エンジンから出火原因が究明されていない F 1 6 の苫小牧上空の通過の訓練は認められないこと。

**【回答】**（総合政策部空港政策課 担当）

在日米軍再編に伴う訓練移転につきましては、国の安全と防衛が極めて重要な国家の政策であることを基本認識に、国との協定の締結、騒音対策の推進、事故事件に関する対応や処理、関係機関で構成する連絡協議会の設置、地域振興策の実施などが確認できたことから、訓練移転の受け入れにつきまして、やむを得ないものと判断をしたところでございます。

また、三沢基地 F16 につきましては、東北町小川原湖での燃料タンク投棄事案に関する原因、今後の対策などの情報提供をお願いするとともに、機体点検の徹底や安全管理について、万全の体制で訓練を行うよう要望しております。

2. 一般市民が参加し易いように市内中心部で苫小牧市民全体を対象とした説明会を開催すること。

**【回答】**（総合政策部空港政策課 担当）

千歳基地での訓練態様につきましては、航空自衛隊千歳基地と同様の飛行経路で運用することになっているため、平成 20 年 2 月の訓練移転当初から、市内中心部での説明会は実施しておりません。なお、市民周知につきましては、市ホームページや新聞の市役所だよりなどのほか、航路下地域の方々には、訓練通知内容を掲載したチラシを全戸配布して周知を図るとともに、市空港政策課で問い合わせ対応を行っております。

3. 前回の回答でも沖縄負担の軽減について沖縄の各自治体から「軽減の実感があるとは言い難い」との回答を認めています。沖縄の負担軽減になっていない事実を認めること。

【回答】（総合政策部空港政策課 担当）

沖縄の負担軽減につきましては、「本来であれば嘉手納飛行場で実施予定であった航空機による訓練の一部が本土又はグアム等に移転されることから、嘉手納飛行場周辺の住民に対する騒音の影響が一定程度軽減されているものと考える。」と北海道防衛局から回答を得ています。

市としましては、毎年、嘉手納飛行場周辺自治体に対し調査を行っておりますが、嘉手納町からは、「平成24年2月に、訓練移転期間中の航空機騒音が激減し、効果を実感した例もある」との回答をいただいておりますので、今後におきましても、可能な限りの訓練を受け入れることにより、少しでも沖縄の方々の負担を軽減してまいりたいと考えております。

4. 事故続きオスプレイの苦小牧上空の飛行は許されません。オスプレイの苦小牧上空の飛行に対しては市として断固抗議して今後は反対していくこと。

【回答】（総合政策部空港政策課 担当）

オスプレイ等の訓練に際しては、国の責任において徹底した安全対策を講じるとともに、飛行に際しては、これまでの航空自衛隊の訓練と同様に、市街地上空飛行及び低空飛行をできるだけ避けていただくよう、国に対してお願いしてきたところであり、今後におきましても、市民の安全・安心の確保を図るため、要望を続けてまいりたいと考えております。